

2026年度 裁判所事務官（一般職）本試験（基礎能力試験） 講評

No.	科目	出題内容	正解	正答率*	講評
1	現代文	内容把握	2	A	<p>【文章理解】 (現代文) 例年は要旨把握、内容把握、空欄補充、文章整序の4ジャンルからまんべんなく出題されて計5題の出題となっていた。しかし今年は、空欄補充が出題されず、要旨把握2題、内容把握2題、文章整序1題の内訳へと変化した。長文問題の正答確定にあたっては、内容把握では本文に書かれていない内容について恣意的な思い込みで合致すると判断しないこと、要旨把握では主題の捉え方がずれている肢を選ばないことが鍵になるといえる。全体を通じて、例年の出題に比べると難易度が高いと捉えられる。</p> <p>(英文) 昨年同様、内容把握2題、空欄補充1題、文章整序1題の合計4題となった。内容把握の文量がやや多めであった。空欄補充問題も昨年に引き続き、文法知識を問う空欄があり、文脈把握だけでは正解をたどり着くことが難しい問題であった。全体的に、例年と比較してやや難化している。</p> <p>【数的処理】 (判断推理) 出題数は、昨年度と同じく9題(No.10~No.18、計量以外の図形も含む)で、全体的な難易度は標準的である。No.14の暦の問題は、問題文より1月1日と翌年1月1日の曜日が2日ずれているとわかるので、これをもとに西暦203X年がうるう年と気づけるとよい。また、各選択肢は、各月1日の曜日に関するものや、1日の曜日がわかると考えやすいものが多いので、あらかじめ各月1日の曜日を抑えた上で選択肢を絞るとよいだろう。No.18の正六面体A、立体B、立体Cの関係性は、「Kマスター数的処理」「3-1立体図形」例題2で登場する立方体ABCDEFGH、正四面体BDEG、正四面体に内接する正八面体の関係性と同じである。例題2で、各図形の構造や体積(体積比に関する選択肢もあり)について押さえていたことで、容易に正解肢を選べた受験生もいたのではないかと推測される。</p> <p>(数的推理) 出題数は、昨年度と同じく5題(No.19~No.23、No.23は図形の計量)で、全体的な難易度は標準的である。No.21は濃度の問題というよりは不定方程式の問題である。混合前の食塩水の質量や濃度を数値や文字で設定した上で、混合後の食塩水内の食塩の量に関する方程式を作り、考えられる整数解を探せばよい。No.22はA単独、B単独、AB2人のそれぞれのケースにおける単位時間で洗った枚数の関係性を立式した上で、AB2人でやった場合の単位時間で洗った枚数(単位は「枚/分」など)を求められるかと、その値を「秒/枚」単位になるように変換できるかがポイントである。</p> <p>(資料解釈) 出題数は例年どおり1題のみ(No.24)で、難易度は易化した。各選択肢とも正誤判断をする際、工夫次第では計算量を大幅に減らすことができる。肢1は2010年インドの増加率(=3557/801-1)を立式した上で、これを確実に上回る年と国(2010年中国の増加率=18265/2069-1)を見つけられるとよい。肢2は日本とアメリカの台数の値からそれらの合計が(48000の半分にあたる)24000を超えないことに気づけるとよい。肢3の世界計の5%は10で割り(10%にし)半分にして考えると、計算量を大幅に削減できる。肢4は2020年中国の台数が世界計の半分以上を満たしていないことから判断できる。</p> <p>【時事】 No.25は経済事情に関して問うものであるが、各選択肢は、経済用語と財政に関することに限られており、時事問題としてはオーソドックスなテーマを取り上げたといえる。No.26は日本の国内事情に関するものであるが、各選択肢の構成をみても、昨年と同様に法律や統計調査結果から出題される点は同じといえ、テーマも典型的なものでいえる。No.27は世界の状況であり、昨年と同様に主に国際政治分野からの出題である。G7やBRICSなどの事項は容易なものであり、ケンントン条約、Gゼロ、AUKUSなどは比較的難度が高いと思われるが、消去法で対応できた者は多かったと思われる。No.28も昨年と同じで、教育、文化、スポーツ分野からの出題となった。各記述の正誤判断を各々行う必要があるが、選択肢は全て2025年の出来事であり、報道などの記憶にあった者は判断し易かったと思われる。No.29は環境及び科学に関する出題で、日本人のノーベル賞受賞者、宇宙開発は、公務員試験の時事問題としては頻出テーマであり、南鳥島周辺海域のレアアース採掘についても、正確に把握していれば正誤の判断は難しいとはいえない。No.30は一見すると、情報の問題と誤解されるかもしれないが、本問はあくまでIT・デジタル技術に関する最新の用語等を問うもので、時事問題である。馴染みの無い用語もあるかもしれないが、日進月歩で進歩するIT・デジタル技術については、時事問題として対応できるように準備してほしい分野といえる。</p>
2	現代文	内容把握	3	B	
3	現代文	要旨把握	4	A	
4	現代文	要旨把握	4	A	
5	現代文	文章整序	5	A	
6	英文	内容把握	1	A	
7	英文	内容把握	5	A	
8	英文	空欄補充	5	C	
9	英文	文章整序	4	B	
10	判断推理	論理(論理式)	1	A	
11	判断推理	真偽	3	A	
12	判断推理	試合	4	B	
13	判断推理	位置関係	5	B	
14	判断推理	推理	4	C	
15	判断推理	推理	2	B	
16	判断推理	位相	2	C	
17	判断推理	位相	1	B	
18	判断推理	正多面体	3	C	
19	数的推理	約数・倍数	3	B	
20	数的推理	年齢算	2	B	
21	数的推理	整数解	3	C	
22	数的推理	文章題	5	C	
23	数的推理	立体図形の計量	4	C	
24	資料解釈	表(実数)	5	A	
25	時事	経済	5	B	
26	時事	国内事情	1	C	
27	時事	世界の状況	4	C	
28	時事	教育・文化・スポーツ	1	C	
29	時事	環境・科学	3	B	
30	時事	IT・デジタル技術	2	C	

※ 正答率(A:60%以上, B:40%以上60%未満, C:40%未満)は、LEC公務員試験 受験生応援企画『本試験無料成績診断』のデータ(5/19 12:30時点)に基づいて算出しています。本成績診断のご利用方法等の詳細は、LEC公務員Webサイトの専用ページ(<https://www.lec-jp.com/koumuin/juken/seiseki/>)にてご案内しています。

